

地域福祉を進めるための取り組み

市民・地域の皆さんの取り組み

市民一人ひとりが地域や地域福祉に対する意識を高めることや、自分にできる範囲で地域活動に参加しようという意識を持つことが大切です。

自身の課題を一人で解決することが難しい時には、周りの人などに「助けて」と言えるように、日ごろからの顔の見える関係づくりも大切です。

町内会（自治会）や民生・児童委員、各種施設・機関、地域の団体やボランティアは市民に身近な存在であり、地域の生活課題に気づいたときは行政や社会福祉協議会への「つなぎ」の中心となる役割が期待されます。

行政や社会福祉協議会の取り組み

行政は、公的なサービスを担うだけでなく、市民、地域の組織・団体、福祉サービス事業者などの連携やつながりを支援し、自らも関係各部門同士の連携を進めます。

社会福祉協議会は、地域福祉の推進を担う民間の団体としての知識や経験、ネットワークを活かし、行政、地域の組織・団体などと連携するほか、各団体のコーディネーターとしての役割を果たします。

計画の期間と進行管理

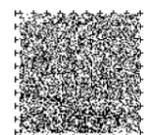
これまで、唐津市と唐津市社会福祉協議会は「唐津市地域福祉計画」と「唐津市地域福祉活動計画」というそれぞれの計画で、それぞれの基本理念のもと取り組みを進めてきました。

社会環境の変化を踏まえ、地域福祉を一層充実するためには行政と社会福祉協議会、地域住民や関係団体の多様な主体が共通の理念のもとで活動に取り組む必要があると考え、今回、二つの計画を一体的に「第4期 唐津市地域福祉計画・唐津市地域福祉活動計画」として策定しました。

計画期間は、令和6年度から令和11年度までの6年間です。最終年度には次期計画へ向けての見直しを行います。

平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
第2期計画		第3期 地域福祉計画					第4期 地域福祉計画・地域福祉活動計画					
第2期計画		第3期 地域福祉活動計画										
	見直し					見直し	一体化					見直し

計画は、「唐津市地域福祉計画・地域福祉活動計画策定推進委員会」で主要推進事業の進行管理・評価・検証を年度ごとに行って見直しや改善につなげます。また、唐津市社会福祉協議会とともに設置する「唐津市地域福祉計画・地域福祉活動計画進行管理庁内調整会議」において、全庁的な管理・調整や社会福祉協議会との調整を行います。



Uni-Voice

第4期 唐津市地域福祉計画・地域福祉活動計画 概要版

編集・発行：唐津市 保健福祉部 福祉総務課 (TEL:0955-72-9252)

社会福祉法人 唐津市社会福祉協議会 (TEL:0955-70-2333)

詳しくは唐津市ホームページをご覧ください。

唐津市 地域福祉計画

検索

概要版

第4期 唐津市 地域福祉計画・地域福祉活動計画

令和6年度～令和11年度

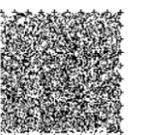
支え合い 共に生きる 安心なまち 唐津



すべての市民が住み慣れた地域や家庭の中で、
自分らしく、安心して暮らしていけるまちになるために
この計画をつくりました。

令和6年3月
唐津市 唐津市社会福祉協議会

この計画書概要版の各ページには「音声コード(Uni-Voice)」を印刷しています。この「音声コード」は、専用の機器やスマートフォン用アプリを使って、紙面の内容を音声で聞くことができます。また、利用者が「音声コード」の場所を確認できるように、半円形の切り欠きを設けています。



Uni-Voice

「福祉」ってなあに？

「福」も「祉」も「幸福」や「しあわせ」を意味する漢字です。英語ではよくwelfare(ウェルフェア)」という言葉で表します。

welfare = well + fare
よく、十分に 生きる、暮らしていく

語源をたどると、「福祉」は人がしあわせに、よりよく生きていくこと。

みんなで、人のしあわせや、よりよく生きるについて考えてみましょう。

地域のさまざまな生活課題

各地で人口減少や少子高齢化が進み、昔ながらの地域の“支え合い”が弱くなっています。いくつもの悩み・困りごとをかかえる家庭が少なくないことも全国的な調査などでわかっています。

介護・育児・仕事の両立



80代の親とひきこりの50代の子

障がいのある子どもと、その親の高齢化

暮らしの困窮

ヤングケアラーの問題

市民の皆さんの声

市民アンケート、関係団体・機関アンケート、福祉を考える会、中学生・高校生との対談、計画策定推進委員会などで、多くの市民の皆さんから唐津の生活課題や解決への取り組みについて意見をもらい、計画に生かしました。



- 高齢者、子ども、障がいのある人など、すべての支援は当事者の視点に立って考えることが何より大切だ。
- 地域で活動する人の周りでその人を支える人が年々少なくなっている。
- どのような制度が使えるのかわからない人が、孤立・孤独になりがちだ。
- 困った問題に自分で気付いていない人も多く、そのような人に気づき、福祉サービスにつなげられる人や体制が必要だ。
- 地域で困りごとを見つけ、受け止める。医療や介護につなぐ役割を地域で果たせるとよい。
- ネグレクト、ヤングケアラーなどの課題があっても子ども自身が誰にも相談できていない。
- ボランティアなどは、人材確保とともに、現在活動している人を維持することも重要だ。



基本的な考え・理念

人と人とのつながりが薄れつつあると感じられる今、すべての市民が安心して暮らせる唐津になるためには、お互いに思いやりの心を持ち、ともに助け合い支え合うことが大事ではないかという思いから、計画の基本理念を決定しました。

必要だと思われること

- さまざまな生活課題や地域の状況に応じたきめ細かい支援や生活環境の整備、すべての人の権利を守る必要があります。
- 困りごとを受け止める相談体制を整え、福祉サービスを知らずに利用できないことがないように、情報を届ける必要があります。

- 医療・福祉サービスを誰もが受けられるようにして、一つの分野だけでは解決が難しい課題には関係機関や団体が連携して対応する必要があります。
- 市民団体や関係機関との連携で、唐津の「地域力」を強化する必要があります。

- みんなが地域福祉への興味・関心を持ち、日常的、緊急時ともに身近な支え合いや見守りを実践することが必要です。
- 市民の交流の場を増やしたり、ボランティア活動に参加しやすくしたり、地域福祉に目を向けてもらう意識づくりや次の世代への意識の継承が必要です。



基本理念

支え合い 共に生きる 安心なまち 唐津

基本目標

I 誰もが安心して暮らせる唐津になろう

II つながり、共に生きる唐津になろう

III ふれあい、支え合う唐津になろう



この計画で取り組むこと

施策の方向

1 利用しやすい福祉サービスの提供

2 安心して暮らし続けるための福祉サービスの充実

1 地域での医療体制の連携強化

2 パートナーシップの強化

1 身近な地域での支え合いの充実

2 一人ひとりが輝く活躍の機会の充実

施策

(1) 困りごとを受け止める相談体制

(2) 情報提供の充実、利用の促進

(1) 安心できる生活環境の整備

(2) さまざまな生活課題への対応

(3) 権利擁護の推進

(1) 医療サービスの充実と体制の強化

(1) 関係機関との連携体制の強化

(2) 多様な地域資源との連携

(1) 身近な支え合いや見守りの促進

(2) 災害・緊急時の支え合いの充実

(1) 地域活動や住民参加の活性化

(2) 気軽に交流できる機会や場所の充実

(3) ボランティア活動の活性化

(4) 地域福祉に対する意識の啓発